



3点とも大正6年発行の初三郎鳥瞰名所図絵の表紙絵。
英文・ローマ字表記が混在、図柄・構図は類似している。



鎌倉名所図絵 (巻物)

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

「江ノ電」の愛称で知られる江ノ島電鉄の歴史は、前身となる江之島電気鉄道が明治三十五年九月に藤沢―片瀬（現・江ノ島）間を開業したことに始まる。明治四十三年十一月には小町（現・鎌倉）まで延伸して全通。その翌年、電力会社の横浜電気に吸収合併され、江之島電気鉄道部となった。その横浜電気も東京電灯（現・東京電力）に買収されるが、大正十五年に新たに江ノ島電気鉄道が設立、東京電灯から路線を譲り受け、現在に至っている。

戦後は、社名を江ノ島鎌倉観光と改め、小田急電鉄の関連会社となり、昭和五十六年には江ノ島電鉄に社名を変更した。

今回の初三郎図絵は、大正六年頃の刊行で初作品「京阪電車御案内」（大正二年）から三十数点目、大正初期の筆致である。また昭和四年、九年にまとめられた『初三郎作品目録』には収録モレした珍品でもある。

藤本一美

首都大学東京・専修大学非常勤講師。日本地図学会会員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」（私家版2006年）、最新刊に「展望の山50選 関東編」（東京新聞出版局）がある。

